

治安維持法100年の今年を振り返って  
府本部会長 原田 完

今年は治安維持法100年の年として、大きく注目される一年となりました。3月の山本宣治墓前祭を始め、倉岡愛穂墓前祭、細井和喜蔵の文学碑建立等々が執り行われました。

国賠同盟京都府本部としては

7月25日に念願の「レジスターントの京都・治安維持法下の青春」の初版本出版をすることができました。執筆には井口先生、

岡田先生、勝村先生、本庄先生議員、そのほか研究者や学識経

新選組のシンクタンクとも言わ

れていた松尾立命館大学教授、

盟京都府連委員長、倉林明子前参議院議員、穀田恵二前衆議院

議員、各団体、個人の多くの方々からお祝いの言葉とともに、私たち治安維持法国賠同盟への激励と期待の声が寄せられました。治安維持法100年の今年は國賠同盟の全国方針として、市民との共同した大規模な市民集会の開催が提起されました。京都府本部では近畿ブロック交流会開催担当県として、9月に近畿ブロック会議とリンクした講演会「治安維持法100年を問う・もの言わさぬ国家はNO！」を開催、国賠同盟中央顧問でもある治安維持法研究の第一人者の荻野富士夫・小樽商科大学名誉教授による講演を受けました。

講演会はSNSでも配信されましたが、400人を超える参加となり会場に入りきれず立ち見やロビーにまであふれる超満員で、大成功をおさめた市民集会となりました。参加された多くの方々は参政党や維新の伸長、スパイ防止法や排外主義の拡がりに対し、このままで危険という強い思いで足を運ばれたのではないでしょうか。

長は治安維持法と女性蔑視ジンダー問題、京都総評の梶川議長からは秘密保護法、経済秘密保護法に関わりその危険性と労働現場の問題点の指摘、日本共産党の渡辺京都府委員長は、排外主義とスパイ防止法と改憲への危険性の指摘と闘い、各団体の運動と現在の政治情勢の下での問題点と新たな運動への決意表明がありました。



(618号付録)

京都版 第473月号

2025年12月15日

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

京都府本部

〒604-8832 京都市中京区

壬生下溝町 51-41

TEL : 075-312-8787

FAX : 075-325-3863

E-mail

Info@kokubai-kyoto.com

ホームページ

<https://kokubai-kyoto.com>



当初、占領軍は軍国主義の担い手「戦犯」追放が治安政策の中心でしたが、東西冷戦が深刻になると、労働攻勢を抑えるために「公務員のスト権」を不当に奪う「政令201号」や「団体等規制令」を出させました。

衆院文部委員会（1950・2・17）で共産党の谷口善太郎委員質問。學術會議から政府の「科学技術行政協議会」への委員推薦（12人）のうち一人がはずされた。

この下請け機関的な法務府特別審査局長から1952年の破防法成立と公安調査庁設置の中身の吉河光貞（3代目の公安調査長官、1964年5月から6年9月まで）がいました。

科学技術行政委員会は関係各行政機関の官吏（次官クラス）及び学識経験者の内から内閣总理大臣が任命し、学識経験者のあるものを任命する場合においては、日本学術会議の推薦を尊重しなければならないとされていました。

また、彼吉河は、マツカーシーの「非米委員会」にGHQのウイロビー要請で証人として、「ゾルゲ事件」について発言しました。東西冷戦下の情報戦とレッド・ページの必要性と情報共有を証言しました。

谷善は「すでに羽仁五郎君以下12名の委員の推薦がありまして、そのうち山田勝次郎君という人だけが、いまだに任命されていらない」のはなぜか質問しました。山田は元京大助教授でマル経の『地代論』の研究者で共産党にカンパしたとして治安維持法で検挙歴がありました。



「集い」終了後 四条大宮で街頭宣伝

次号に続く

もよいから出さない具合が悪い  
申し入れがあつた」と答弁しました。  
した。裏で動いたのは、占領軍の意向を受ける法務府特審局河原  
だろうと推測されます。

の特別職公務員が政府は、共産党系とみなしぜんめいを忌避したの

清水寺宣伝に6人参加

清水寺自慢の紅葉は盛りが少し過ぎていましたが、多くの観光客で大変な混雑です。

九州からの修学旅行で来た高校生たちが、興味を持つて熱心に質問などして聞いてくれていました。

四季折々に素晴らしい、観光客に大人気の清水寺境内での宣伝はこれからも続けます。



清水寺宣伝

## 支部だより

同盟費についても66%（昨年84%）の納入率です。「不届」丹後版は10月より発行を再開しました。

「新春のつどい」を2026年1月24日（土）丹後民主工商会で行います。

**京丹後支部**  
副支部長 森 勝

京丹後市も初雪が降り「弁当忘れても傘忘れるな」と言われる「うらにし」の季節になってきました。第1回支部委員会を受けて活動を開始しましたが、

昨年と比べると各分野で遅れが目立ちます。国会請願の個人署名は一人で65筆を集めた牽引役の役員もいますが全体的に弱く12月10日現在220筆（昨年400筆）です。

団体代表者署名は、11月18日より各団体に依頼に回り始めたばかりでまだ6団体（昨年は9団体）とこれからです。

### 宇治洛南支部

支部長 山崎恭一

激動する政治情勢のもと会員の活動交流を行い、京都府知事選挙勝利始め諸課題の達成に向けて決意を固め合うスタートにする予定です。

### その他

①「米軍基地いらんちやフェス

タ2025 in 丹後」（11月9日）に多くの同盟員が参加。（全體で450人）

②加悦町で行われた、「細井和喜蔵没後100年記念式典・記念講演」（11月22日）には京丹後支部から5人が参加しました。

多忙な役員ばかりですが各同盟員にも訴え、遅れている諸課題の達成に向けて年末まで力量に

応じた活動で頑張り新年を迎えたいと思います。

7つの話題について一つ一つ掘り下げた話を聞いていただきました。

総会議案は、準備中に起こっ

た宇治洛南支部第14期総会を開きました

府本部佐藤和夫副会長が記念講演

12月7日に宇治洛南支部総会を開きました。

宇治、城陽、京田辺、久御山などから20名が出席しました。来賓として、国民救援会宇治城陽久御山の会の堀江幸雄さん、日本共産党洛南地区委員長石川和司さん、宇治山宣会会長藪田秀雄さん（文書メッセージ）からご挨拶を頂きました。

記念講演は、府本部副会長の佐藤和夫さんに『レジスタンントの京都』出版で見えて来たもの。

た祝園ミサイル反対の大集会や

たな情勢を反映させた追加議案を加えて提案。討論では、関西電力での思想差別の歴史について、祝園弾薬庫のミサイル格納庫の建設場所が京田辺市打田地区と公表されたことなどが報告されました。スパイ防止法案や

急ピッチの軍拡など、進行する危険な動きとそれに抗する運動などを反映したものでした。役員改選では新たに2人の新役員を含めた15人の新体制が承認されました。コロナで集まつての総会が開けなかつたり、ごく少人数の総会が続いていましたが、今年は出席者も増えて元気な総会となりました。